

1 学校教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

【嵐山小学校 学校教育目標】

自ら関わり、ともに支えあい、学びにチャレンジする子どもの育成

友だち大好き 学校大好き 地域大好き 嵐山の子

【めざす子ども像】

- ◇ 自ら課題を見つけ 学び続ける子ども 【確かな学力】
主体的に学ぶ姿勢を育てる
わかる喜び、学ぶ楽しさを感じる
共に関わり合い、高め合う
基礎・基本の学力定着
- ◇ あいさつを自発的にできる子ども 【豊かな心】
失敗を恐れず前向きにチャレンジする子ども
互いのよさを認め合う
目標に向かって努力する
- ◇ 元気いっぱい 活動する子ども 【健やかな体】
基本的生活習慣の確立
健康と安全に关心をもち実践する
安全・防災への意識を高め、命を守る

【めざす学校像】

- ☆『子どもも大人もかしこくなる学校』(大人：教職員・保護者・地域)
- ◇新学習指導要領の理念に向けて実践する学校
- ◇失敗をおそれずにチャレンジし、課題に向かって積極的に取り組む学校
- ◇夢や希望をもち、ともに高め語ることができる学校

【めざす教職員像】

- ☆目指す子ども像、学校像を語り合う教職員
- ◇個々の持ち味、専門性を發揮し、挑戦し続ける教職員
- ◇子どもを中心に考え、子どもの思いを捉え指導しきる教職員
- ◇健康で活気あふれる教職員
- ◇情熱をもち、協働して教育活動を実践する教職員
- 学年担任制による漏れのない「報告・連絡・相談」で連携の強化を図る
 - ・学年や部での組織的な取組
 - ・子ども、保護者の思いを理解し、迅速、丁寧な対応
(家庭訪問、電話連絡、連絡帳、すぐーるの活用など)
 - ・人間関係作り

2 学校経営方針 ← 児童・保護者・地域の実態から

☆カリキュラム・マネジメントの視点

- ・教科横断的な視点 ・年間指導計画の見直しと PDCA ・学校評価の活用
- ・ICT 等の活用 ・探究的な学習 ・生き方探究パスポート など

☆自らの働き方や資質・指導力向上に向けた意識改革

留守番電話設定 18 時の徹底

校時の改定（パワーアップカット、短縮校時月・水、掃除火・木・金
授業時間の見直し年間 1086 時間以内）

① 「確かな学力」の育成に向けて・・・生きて働く学力

☆「授業を創ること」は「学校を創ること」…主体的・対話的・深い学びの実現

1) 社会とのつながり・接続を実感できる授業づくり

○意欲的に学ぶ学習集団作り

○自己の将来の生き方を見据え「SDGs」の理念（持続可能な社会の担い手を育成する）を踏まえた授業づくり

○わかる喜びと学ぶ楽しさが実感できる授業づくり→深い学びへ

（「学習課題（めあて・目標）」を設定し、その実現のために発達段階に応じた「まとめ」と「振り返り」を行う）

○子ども主体の授業づくり、子どもの思考が思わず動き出す課題設定や発問

○探究的、問題解決的な授業づくりと主体的な学び

…子どもが「自分ごと」にする、相手意識を持って伝え活用する、
考えを深め、最後まで自分の力でやりきる

○ICT を活用した授業づくり

※授業公開を通して授業力、実践力を高める（普段の授業から）（若手実践研修）など

※研究主任・学力向上主任を中心とした研究と学力向上の取組

- 2) 指導体制の工夫
- | | | |
|-----------------------|---|---|
| 4・5・6年 理科専科 | [|] |
| 6年と5年の1/2の音楽…専科（協力）指導 | | |
| 3・4年の図工・音楽…専科指導 | | |
| 全学年の教科担任制（単元ずつも可） | | |
- 3年生までのチーム担任※1年生は4月～6月まで朝や昼食は固定交換授業の実施
- ※学年で学年の児童を指導する意識。
児童についての情報共有は知らないことがある前提で対応すること

3) 学習習慣の定着…自学自習の力の育成

○家庭学習による自学自習の習慣化（家庭学習の手引の活用など）

GIGA 端末の活用も検討

○学習方法の指導…学習課題（めあて・目標）に応じた「まとめ」と「振り返り」

4) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実

- 言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力の育成
- プログラミング教育などを通して ICT 機器を積極的にかつ効果的に活用した学習指導の充実と論理的思考力の育成
- 全校集会、児童集会を活用した全校での伝え合い
自分の思いを表現する・自己肯定感を高める・聞いたことを基に考え、交流するなど
- 学校図書館の効果的・積極的な活用
 - ・利用指導（学校司書との連携）…各学年で計画的に実施、学校司書との連携
 - ・読書活動の推進
読書週間（年間3回）（図書館教育部）の設定、100冊読書などの取組、朝読書の（活用・徹底、読書ノートの活用、図書館の環境整備（学校司書、図書ボランティアの協力）など

5) グローバル化時代に対応する実践的英語力の育成

- 英語を用いて考えや気持ちを伝え合う言語活動を通してコミュニケーションの基礎的な資質・能力を育成する
 - 低・中学年…聞くこと話すことの言語活動の充実
 - 高学年…聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語活動の充実
 - 中学校期への円滑な接続

6) 探究活動を通した、主体的・対話的で深い学びの実現

- 既習の力を組み合わせて考え創り出す力を育む
- 教育課程全般にわたって、自ら課題や疑問点を設定し、調べ、解決する過程を大切にした探究活動を推進し、発表し合う機会を増やす（異学年交流）
- 自然体験、社会福祉体験、職場体験、ボランティア体験などの学習活動の推進
- 伝統文化教育、環境教育、食育等で多様な学習形態を取り入れ、主体的・対話的に問題解決を図る学習を推進する

7) 小中一貫教育（京都嵯峨学園）の取組の推進

- 授業を伴う研修会、夏季研修会（教職員）
- エスノートの活用（目標を明確にした計画的な学習と振り返り）
- 英語活動（1・2年）・外国語活動（3～6年）の取組
 - 1・2年 年間20時間（原則火曜日…6時間授業）…嵯峨学園 ALT
 - 3・4年 年間35時間 …嵯峨学園 ALT
 - 5・6年 年間70時間 …京都市 ALT
- 中学校授業体験、嵯峨中パレード、その他嵯峨学園の取組

8) LD等支援を要する児童、障害のある児童への取組

- 個々の子どもの課題をとらえ、「個別の指導計画」を活用し支援を充実させる
- 子供の特性を理解し、一人一人が認められる中で、規律ある生活習慣の確立、学びの集団作りを実践する（個と集団を育てる インクルーシブ教育）
- 育成学級、普通学級の交流等
- LD等通級指導教室、ことばときこえ教室の活用
- 総育部会、ケース会議の実施と専門機関との連携
- ※学習環境のユニバーサルデザイン化

9) 全国学力・学習状況調査、ジョイント・プログラム、プレジョイント・プログラムなどの活用（日々の授業づくりと定着のための取組）

- PDCA（学力向上の取組についての共通理解、具体的な目標設定、学力分析・授業改善）

② 「豊かな心」の育成に向けて

1) 道徳教育の充実

- 校内体制の確立と実践・発信
 - ・道徳主任、道徳教育推進教師を中心に、全教職員による行内体制を確立し、全体計画及び別様を作成・検討する。評価についての共通理解
 - ・6月・10月を「道徳教育推進月間」と位置づけ、公開授業やホームページ、学校だより等を通して家庭や地域に広め、教育活動全体を通じて、道徳教育を推進する
 - ・家庭や地域との連携・情報発信
 - ・こころの日の取組
- 授業づくり（主体的・対話的で深い学び）
 - ・教科書、道徳ノートなどを使った「考え、議論する道徳」の実践
 - ・児童が深く考える主体的・対話的な学習
 - ・多様な指導方法
 - 学校行事や総合的な学習、特別活動、各教科等との関連
 - 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等
 - ・積極的な授業公開と参観により授業力を高める

2) 伝統文化や芸術を通じ豊かな感性・情操をはぐくむ

- 総合的な学習等で伝統文化に関する学習

3) 多様性を理解する姿勢の涵養

- ※人権教育主任、生徒指導主任、総合育成支援教育主任等を中心とした取組の推進
- 特別活動、総合的な学習などの障害理解、国際理解教育等
- 命の大切さを実感し、人権意識を高める取組
 - …「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」（京都市教育の理念）

4) 支え合い高め合う集団作り

- つよくしなやかな心の育成…自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高める取組
 - 学級会、児童会活動等を通した子どもの主体的・自発的な活動
- 京キッズ会議の児童会の取組を全校に広める
- 学習規律の徹底
 - ・日常生活での丁寧な言葉遣い、あいさつや返事（認め合い）
 - ・いじめ・暴力等の問題行動に対しては、「社会で許されない行為は、学校においても許されない」という毅然とした姿勢
- ※教師も子どもも呼び捨てにする場面は一切ない（～さん）
- ※教職員はモデルである自覚を持つ
 - 日々の学校生活で、児童の人権を尊重する姿を見せる
- 教育相談（SC・SSWの活用）と不登校対策委員会、いじめ対策委員会
 - ・「いじめ基本方針」を基にした取組
 - ・生指・総育委員会での情報共有と課題への対策
- 集団・宿泊的行事による多様な体験活動
 - ・つけたい力を明確にした自然体験、宿泊体験等を通した生きる力の育成

③ 「健やかな体」の育成に向けて

1) 運動やスポーツの実践と体力の向上…継続的な取組と振り返り

- ジャンプアップの取組を活用した体力の底上げ
- 新体力テスト等の調査結果の分析
- 計画的な取組（健康委員会の取組など）

2) 保健教育の充実

- 基本的生活習慣の確立（健康委員会を中心とした「早寝・早起き・朝ごはんキャンペーン」などの実施と保護者への働きかけ）
- 薬物乱用防止教育、飲酒や喫煙に関する指導

3) 安全・防災教育の充実

- 危機を予知し、自ら判断し行動する態度の育成と安全・防災意識の向上
- 自分の命を守るためにの知識
- 避難訓練、総合的な学習の取組等
- 地域との連携とマニュアルの再点検

4) 食に関する指導の推進

- アレルギー対応の徹底、個に応じた指導
- 食に関する指導

嵐山小学校の具体的な子どもの姿

- 1 相手の顔を見て自分からあいさつをする。
「おはようございます」「ありがとう」など
- 2 名前を呼ばれたら、しっかり返事する。
- 3 学校では、毎朝必ず、左胸に名札を付ける。
- 4 友だちは、絶対に呼び捨てにしない。「～さん」
- 5 みんなといっしょに外で遊ぶ。
- 6 靴のかかとを踏まない。
- 7 だれに対してもていねいな言葉遣いをする。
- 8 トイレをきれいに使い、スリッパをそろえる。
- 9 教室から移動するときは静かに歩く。
- 10 掃除中は話をせず、協力してきれいにする。

おはよう
ございます！

